



アショロア発見 50年

「アショロアの化石」は、**足寄の化石第1号**として1976（昭和51）年に発見され、いったん北海道大学に収蔵されました。1980年に上幌湾在住の矢吹勝美さん・矢吹勝家さんが**第2の化石**を発見したことをうけて、**町民による化石の作業**が始まりました。

1984年に開設された**足寄化石作業所**において、二つの化石が**束柱類**という**絶滅哺乳類**であることが確認され、化石への取り組みは本格化します。「第一標本」は1995年足寄町に移管され、1997年からは新築の博物館施設で全身のクリーニングを開始しました。1998（平成10）年には**足寄動物化石博物館**がオープンし、足寄の化石は世界デビューを果たしたのです。

足寄動物化石博物館ができて、研究は本格化しました。

1998年 第二標本の復元骨格公開

2000年 新属や新種として正式な学名の提案

Ashoroa laticosta （第一標本）

Behemotops katsui （第二標本）

2001年 アショロア復元骨格公開（写真上）

2017年 アショロアをモデルチェンジして
水中を泳ぐ姿勢に転換 （写真下）

など、学名や骨格の復元が提案されました。

さらに、2021年には **足寄動物群束柱類化石** として北海道の文化財に指定されるなど、社会的にも存在がみとめられるようになりました。

博物館では、2026年がアショロア発見から50周年になることを記念して、解説の冊子を発行することにしました。アショロアのこと、ベヘモトプスのこと、束柱類のこと、足寄動物化石博物館のこと、などなど、多彩な内容を盛り込むつもりです。

アショロアの発見は「夏」。あつい中身をお楽しみに！



足寄動物化石博物館 フォストリーあしよろ

指定管理者 NPO法人 あしよろの化石と自然

〒089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 TEL 0156-25-9100 FAX 0156-25-9101

staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp

No. 170

2026年 4月8日発行

（年4回発行）

（博物館だよりpdf版あり）

あしよろ化石教室

地層や化石に触れ、北海道の大地の移り変わりを直に感じましょう。



釧路市阿寒町での発掘のようす

足寄町螺湾での化石採集のようす

白糠町右股の地層と化石

第一回：釧路市阿寒町の地層で、500万年前の貝化石を探します。地層はかためですが、大きなタカハシホタテは迫力満点です。

第二回：白糠町右股の地層で、3000万年前の貝化石を探します。石ころのようなノジュールに包まれている化石が多い。ノジュールを割ると巻き貝や二枚貝の化石がでできます。

第三回：足寄町モラワンでは「足寄の化石」が発見されている2500万年前の地層（モラワン層）を観察し、螺湾らわんでは、古十勝湾の地層にある500万年前の貝化石を探します。

第一回 釧路市阿寒町

日時：6月7日（日）12：30集合 15：00ごろまで

人数：30名程度

※年齢制限はありません。

第二回 白糠町右股

日時：6月14日（日）12：30集合 15：00ごろまで

人数：30名程度

※年齢制限はありませんが、大人ひざ丈程度の川を渡ります。

第三回 足寄町螺湾・モラワン

日時：6月21日（日）12：30集合 15：00ごろまで

人数：20名程度

※年齢制限はありませんが、大人ひざ丈程度の川を渡ります。

申込み：5月13日（水）来館または電話での仮予約開始

※仮予約後に詳しい参加案内と申込用紙を渡します。また、各回とも天候や河川の増水状況、および社会状況によって中止とする場合があります。

足寄博のグッズを ミュージアムグッズ愛好家が見たら

特集



博物館の魅力は展示や体験だけではない！
その博物館独自のグッズも魅力だ！
そこで国内でミュージアムグッズの役割について知ってもらえるよう活動され、書籍も出されている、大澤夏美さんに足寄博のグッズについて話を聞いた。

プロフィール紹介

（編集） 大澤さんといえば、マツコ・デラックスさんの番組に出演されたことで、博物館業界でも大きな話題になりました。まずは、知らない方のために自己紹介をお願いします。

（大澤） はい、2023年2月に、「マツコの知らない世界」の『博物館グッズの世界』というテーマで出演させていただきました。

私はもともと、札幌市立大学のデザイン学部に行った時に博物館学に興味を持ったのがきっかけで、卒業制作のテーマも、実はミュージアムグッズだったんです。その後、北海道大学の大学院に進んで、今度は博物館経営論という、ちよつとアカデミックな観点からミュージアムグッズを研究して、修士課程を修了しました。

足寄との思い出

一度、会社員を経験した後、この「ミュージアムグッズ愛好家」としての活動を本格的にスタートさせました。

（編集） 足寄出身だそうですね。

（大澤） そうなんです。生まれてから数年間、足寄町で過ごした後に一度引越して、また小学校に入る直前にも少しだけ住んでいました。

ちなみに、私が住んでいた家は、中央公園のすぐ近くだった記憶がありますね。

中央公園の雪山に登っては、コマ袋をソリ代わりにして、もう延々と滑っていましたね（笑）。あれが最高の遊びでした。それと、利別川に架かっている橋があつて、その上でぽつと川の流れを眺めていたりもしました。

橋の向かい側は東小で。結局、私は入学する前に引越してしまつたんですけど、後で廃校になったと聞いて、すごく寂しい気持ちになりましたね。

「専門家の目で見ると足寄博のグッズ」

（編集） ではここから足寄博のグッズについて、専門家の視点から率直なご意見をお願いします。

（大澤） 文房具から模型からアクセサリーまで、商品のバリエーションが豊富だなとびっくりしました。マグカップが茶こし付きだなんてすごい！

私なら…指輪が欲しい、マスクングテープが欲しい、800円のアシヨロアの模型も…と、爆買いする未来が見えます。

3Dプリントの復元模型など、最新技術を取り入れてグッズ開発をしている点も見逃せません。自分で作って完成させるグッズがあるのも、やはり手を動かすと博物館での思い出や体験が心に残りますもんね。

売り場にもアシヨロアの解説があつて、ショップでも学べるようになってるのが素敵です。

（編集） ありがとうございます。欲しいものが多いと言ってもらえたのは率直にうれいす！では次に改善できそうな点を教えてください。

（大澤） 使用例を具体的に、売り場で見せてみるのも面白いかもしれません。

「グッズをお家に持ち帰って、どんなふうに生活の中に存在するのか」を見せてあげるといいのかも。

マグネットなら、ご家庭の冷蔵庫で学校のプリントを貼っているシーンを想起させるようなディスプレイにしてみるとか。

「シャツなら親子で着ている様子の写真を飾ってみたり、ノートやシールやマスクアなら、展覧会の思い出を記録したノートを作つてデコつて売り場に飾つてみたり！」

ストーリーのある売り場づくり、商品づくりをする、「語りがある商品やお店」になるので、それが付加価値になると思います。

（編集） 売り場での見せ方に工夫と、ストーリーを意識した商品・売り場づくりですね。参考にさせていただきます！



大澤夏美 「撮影：菅末里」

文鎮づくり 「地質の日 5月10日」の企画



十勝地方の石（十勝石や日高山脈の石など）や北海道各地の石をみがいて、「石の文鎮ぶんちん」をつくります。
上の写真のような「世界の石」もあります。 各石は**数に限り**があります。

石の文鎮（ペーパーウェイト）をつくろう

5月10日（日）10時から15時まで

実施場所：足寄動物化石博物館化石工房（開始時刻にご来館ください）

参加条件：「自分はおとなだ」と思っている人・言える人＝

ながい時間 単調な作業ができる人

【家族で交代もあり、とします】

参加費：1000円

ゴールデンウィークの開館

4月25日（土）～5月6日は開館します

5月7日は休館です

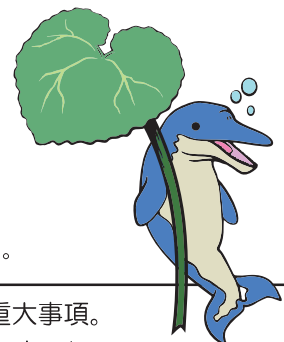
足寄動物化石博物館の利用について

○開館時間 午前9時30分～午後4時30分（入館締め切り時刻）

○休館 毎週火曜日（祭日の場合は開館し、翌日またはその後の平日）
年末（12月28日から）・年始（1月4日まで）
※海の日から8月末までは、全日開館します。

○料金 一般 400円、小中高・65歳以上 200円
幼児は無料。足寄町内の小中学生は無料。

※館の主催事業の際は、無料にすることがあり、その都度お知らせします。



アショロアやバヘモトプスの発見は 足寄町の大事件。化石研究の世界でも重大事項。
足寄動物化石博物館は 試行錯誤しながら「50周年」にたどり着くことができました。
半世紀のまとめ・新たな方針・・・ご注目ください。